

(3) 非鉄金属 海外市況は、銅が数カ月来主要生産国にストもなく、且増産が軌道に乗つて来たため、需給傾に緩和を示して、頃来の思惑人気を解消せしめ前月に引続き軟化、鉛、亜鉛、錫も凡調裡に追隨安を示した。この間アルミのみは主要生産国カナダの減産と需要の旺盛から、前月に引続き強調裡に推移した。

一方わが国価格は、昨秋来海外の上げ幅を上廻つて高騰した銅の市中相場が、海外市況の軟化に加え、地金故銅の大量輸入、金鉱連賃上げ闘争の解決などから、4月積山元建値及び平均販売価格の引上げにも拘らず急落して異常高値を一挙に訂正したのをはじめ、鉛、亜鉛、錫が統落、この反面、アルミは海外の強調に加え引続く内需の旺盛から統伸を示した。このため国際比価関係は、銅が市中相場に於ては割高の幅を縮小したが、取引

量の大半に適用される建値に於ては逆に割高の幅を拡大した。また市中相場高騰に拘らず出し値据置のアルミは好転、その他鉛、亜鉛、錫については格別の変化はみられなかつた。

(4) その他 セメント、化学製品(硫安、苛性ソーダ、レーヨンパルプ)は内外ともに相場保合で比価関係に変化はなく、大豆原油は、わが国保合に対し海外は、原料シード減少予想を映じて上昇を示したため、わが国の割高の幅が縮小した。また生ゴムは海外も合成ゴムの増産による供給過剩懸念から統落しているものの、わが国相場は輸入の順調による国内在庫の増嵩でそれ以上に値下りを示し比価関係は好転。なお原皮は海外が実需増で微騰を示したのに対し、逆にわが国は不需要期入りから軟化を示したため比価関係は好転した。

日 誌 (昭和31年4月)

国 内

- 1日 ○興長銀、貸出金利引下げ実施
- 2日 ○社債等売買市場再開
- 4日 ○日本・パキスタン貿易協定調印(東京で)
- 9日 ○日タイ貿易取極調印、15日を以つて現金決済に移行を決定
- 16日 ○通産省、5、6月綿紡操短率を4% (現行8%)に緩和決定
- 輸出保険法一部改正法律公布施行(海外投資保険

海 外

- 3日 ○アラバマ州、日本繊維品販売法案を可決
- カンボジア、チット内閣成立
- 7日 ○中ソ経済協力協定調印(北京で)
- 8日 ○ソ連・外蒙経済援助協定成立(ウランバートルで)
- 10日 ○セイロン総選挙終了、野党人民統一戦線制勝
- 11日 ○ガット関税会議終了
- 12日 ○セイロン、バンダラナイケ内閣成立
- 13日 ○シカゴを除く米連銀11行公定歩合を引上げ(ミネアポリス、サンフランシスコは2.5%より3%へ他の9行は2.75%へ)
- 15日 ○バグダード条約機構第2回理事会開会
- 16日 ○アイゼンハウアー大統領、新農業法案拒否

- 制度創設)
- 18日 ○日英中間貿易会談妥結
- 20日 ○本行政策委、スウェーデン国通貨表示期限付輸出手形に対し外国為替引当貸付制度を適用
- 日韓会談(抑留者相互釈放交渉)開始(東京で)
- 23日 ○生保、電力事業貸出金利引下げ実施
- 27日 ○日比賠償協定仮調印
- 30日 ○全銀協、計画造船融資金利引下げ決定
- 16日 ○国際小麦会議ロンドンにて再開
- 17日 ○英国1956年度予算発表
- コモンフォルム解散
- 18日 ○ソ連ブルガーニン首相、フルシチョフ共産党第一書記英国訪問(27日まで滞在)
- 19日 ○フィンランド銀行、公定歩合を従来の5%から6.5%に引上
- 20日 ○シカゴ連銀、公定歩合を引上げ(2.5%より2.75%へ)
- 24日 ○中共・カンボジア貿易支払協定調印(北京で)
- 25日 ○国際小麦会議、新国際小麦協定を承認、8月1日より実施
- 27日 ○ビルマ下院総選挙、与党圧勝